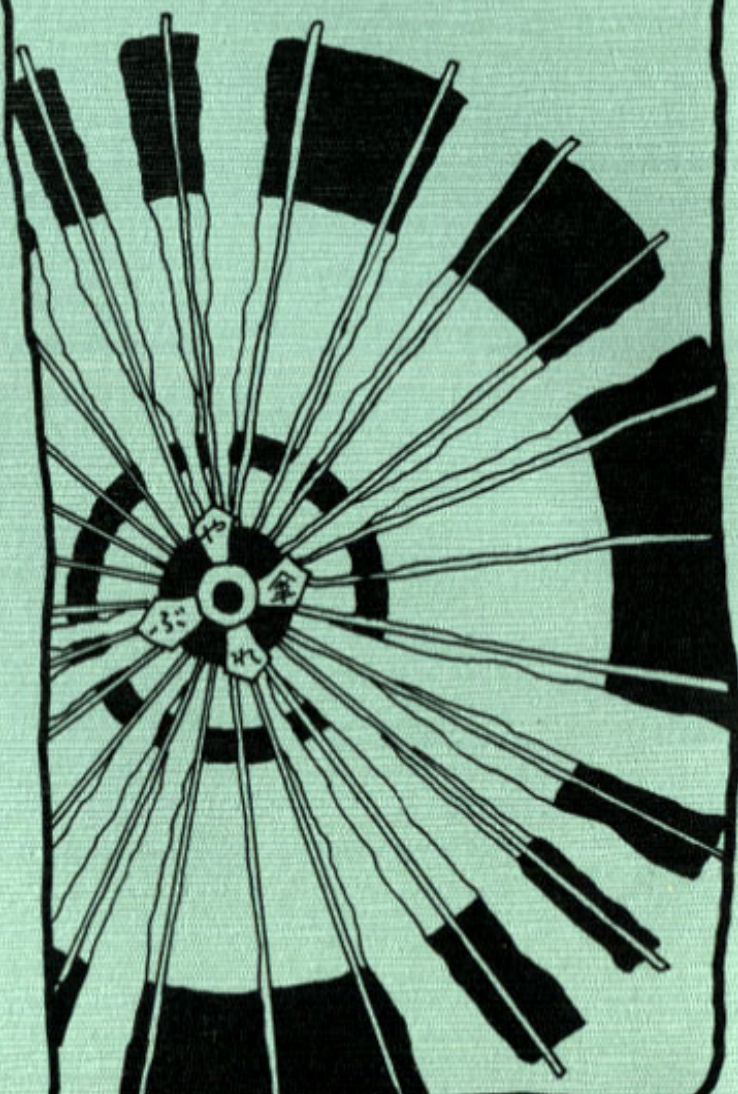


やぶれ傘



八十二号

二〇一五年二月

探梅やまとも川の向ひ風	根橋宏次
たつぶりのハンドクリーム年惜しむ	きくちきみえ
雪の朝駅へと人は一列に	廣瀬雅男
耳袋着けたる生徒たち笑ふ	大島英昭
長風呂の追ひ焚きをする去年今年	丑久保 勲
五時の鐘枯葉が風に鳴り始む	藤井美晴
寒林の先の三角山に雲	渡邊孝彦
冬茜薄れゆきけり船溜り	安藤久美子
年用意「金の成る木」を居間に入れ	久世孝雄
冬ぬくし馬跳びのまた総崩れ	青谷小枝
しぐるるや船頭小屋に客二人	白石正躬
冬灯ノートに落ちる指の影	小山陽子
里神楽舞台の白狐跳びにけり	瀬島洒望
雪吊りの縄四方から空を引く	有賀昌子
炬燵出す出せば自づと座のきまり	國保八江

抄 集 句 傘 れ ぶ や
選 夫 紀 崎 大

鳥の水脈末広がり日脚のぶ	菊池洋子
鴨群るる餌は禁止の池なれど	松村光典
若水を硯の海に五六滴	貫井照子
棟上げに掛け矢を振るふ冬日和	橋本美代
非常勤の最終授業秋の暮	濱野 新
木柵はコンクリ作り谷紅葉	松本善一
揚げたてのカレーパン買ふ五日昼	松本正生
数へ日やおみくじ結ぶ竹新た	森美佐子
嬰児 <small>みどりご</small> の名も新しく祝箸	湯本正友
鉢植ゑの小さき七草摘みにけり	秋元久子
坂道に沿ひて蠟梅香りけり	浅嶋 肇
差し潮に揺れゐる寒の海月かな	天野美登里
喧嘩独楽ひとつ離れて廻りけり	安斉正蔵
山中の祠にノート冬紅葉	奥田温子
寒菊や庭石に撒く鳥の餌	上林富子

猫
犬

大崎 紀夫

猫犬がわれのにほひを嗅ぎにくる
戸袋の風のごゑ聞く根深汁
揚げ舟のスクリュ―錆びて茶が咲いて
敷石へ靴跡もどる霜柱
冬菊の燃えかすとして少し莖

魚屋がきてをり山に雪は降り
炭焼の小屋へ弁当届きけり
幼子の箸が草石蚕ちよろぎをつまみゆく
地球儀へ冬の朝日のあたりけり
川底に底ついてゐる寒の舟
枝の雪ばさりと落つる女坂
楳に節あれば渦巻くごとく燃ゆ

探
梅

根橋宏次

大根をほがほが口にしてゐたり
板チョコのぱりんと割るる雪もよひ
桜木の苗木も落葉してゐたり
茶の花にくもるともなき日の差して
風花や干されながらに魚売られ
天窓を鳥の歩く初湯かな
数の子のアラスカ産といふものを
寒鯉の上に泡あぶくのぼりくる
探梅やまともに川の向ひ風
裸木のつやつやとしてゐるところ

年惜しむ

きくちきみえ

寒風やつままれやすき耳のはし
熱爛の熱き匂ひとなりにけり
鯛焼きの頭はすべて左向き
猫眠る冬の発砲スチロール
セータの首より頭出できたる
たつぷりのハンドクリーム年惜しむ
餅を焼く新しき網さらの箸
お降りを隔てて人とすれ違ふ
坂の途中に家の階段獅子舞へり
雪降りさう急行来さう遮断棒

雪の朝

廣瀬雅男

裸木の銀杏大樹に注連飾り
屏風絵に障子越しなるあかりかな
まさをなる空を見上げて布団干す
軒並べ宝くじ売り飾り売り
昼近くなりてぶらりと初詣
日のあたる庇にふくら雀かな
横丁の角よりひよいと寒雀
ひとひらの雪がガラスに止まりけり
雪の朝駅へと人は一列に
雪明りパソコンだけの文机

耳袋

大島英昭

山茶花や灯台錐の先ほどに
立ち枯れの泡立ち草に富士はるか
裸木はなんじやもんじやと思ひ出す
三日月を西に夜となるからつ風
大年の駅舎を登る昇降機
やはらかき日差に鴉鳴く五日
霜枯れの混じる菜畑に日あたり
耳袋着けたる生徒たち笑ふ
裸木と笹藪笹の葉はひかり
春近き花屋がともし入れにけり

去年今年

丑久保勲

店先に焼 諸 匂 ぶ 八 百 屋 かな
手の棘を爪で引き抜く小春かな
綿虫や飴なめて待つ路線バス
短日や道に段差があつたはず
短日の月伊勢丹にかかりけり
木村家のあんぱんの餡切炬燵
廃材を置く数へ日の天神社
長風呂の追ひ焚をする去年今年
幕間のグラスワインや初芝居
灯油屋のタオル一本寒に入る

冬 薔 薇

藤井美晴

冬の虫また鳴く空の電車行き
五時の鐘枯葉が風に鳴り始む
投げ入れて冬薔薇の紅暗きこと
枯れ切つて風に吹かるねこじやらし
潜きたる鳩の水輪と細波と
うしろから車来る音冬珊瑚
溶岩原の所どころに枯るる草
着膨れて荒磯近く野菜売
粗切りの生白菜の歯切れ良き
海風や絮となりたる石蓆の花

寒 林

渡邊孝彦

電柱と冬三日月と他は屋根
からびたる南天の実に日の射して
落葉積む走り根の先隠すほど
切岸や右の祠の草枯れて
冬耕の畝ならされて土真黒
数かぞへきつて湯をでる冬の夜
寒林の先の三角山に雲
風花す脇参道を帰るころ
小流れに架かる板石水仙花
本堂に窓より冬の日ざしかな

冬牡丹

安藤久美子

バス停に立つ凧と小半時
寒天のアーランドコなる時計台
冬茜薄れゆきけり船溜り
知恵の輪を外す焼諸冷めぬうち
歳晩の書肆にふらりと丸の内
薄々とてつさ張り付く樹脂の皿
廊下へと出し忘れしは雪兎
広島のお蠣の Pasta といふ昼餉
羽根突きの音を聞きぬる窓辺かな
冬牡丹五重塔に陽の当たたる

◇ 3月・4月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
3月	3日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	4日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保勲
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保勲
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
4月	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保勲
	6日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	19日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	大宮・氷川神社	丑久保勲
	25日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

4月19日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はさいたま市JR大宮駅中央改札口・インフォメーション前。吟行地は氷川神社と大宮公園。句会場は稲荷会館(大宮区役所の南隣)。

◎ 連絡先

瀬島孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
丑久保勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ